

2012年度 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」報告書

【外交政策ワークショップ（戦後日本外交論）プレゼン大会】

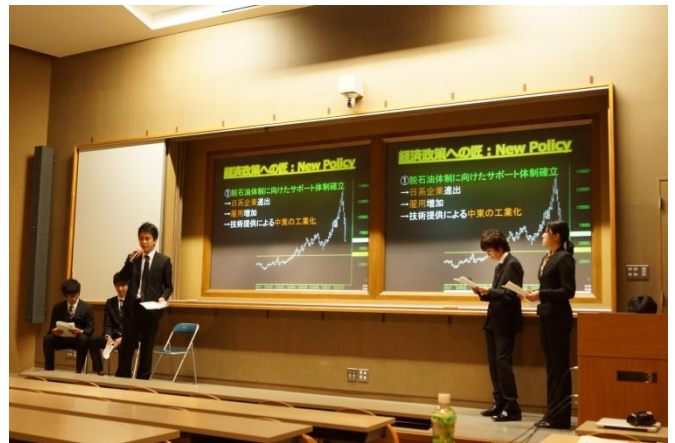
政策・メディア研究科修士課程2年 野口 和博

はじめに ～プレゼン大会とは～

本プレゼン大会は通常講義として開講される「外交政策ワークショップ（戦後日本外交論）」の一環として行われる、日本外交の将来に向けた政策提言のプレゼンであり、当該講義が開講されて以降、これまでに21回行われてきている。本プレゼン大会に向け、履修者は12班（1班11～12名）に分かれ、講義で学ぶ戦後日本の外交政策と国際社会との関わりをもとに、授業外に長期（約1ヶ月半）・複数回のグループワークを行うなど準備をしてきた。授業内においても班ごとにミニ・グループワークを行うなど、様々な外交政策に関して討論を重ねるなどの事前準備も実施してきた。



【写真：開会式の様子】



【写真：プレゼンの様子】

【活動報告】

1. 目的：①各班で選んだテーマに関して問題を設定し、それに対する日本外交の将来に向けた政策提言をすること。
②グループワークにより、講義で学んだ戦後日本外交の経緯と特徴を整理すると同時に、他の学生がどのような考え方を持っているか意見の相違を知ることや、グループワークを通じて共同作業の楽しさと困難さを体験すること。
2. 日時：2012年6月23日（土）11：00～18：00
3. 場所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスΩ館12教室
4. 参加者：草野厚（総合政策学部教授）
外交政策ワークショップ（戦後日本外交論）履修者140名
草野厚研究会（学部生13名、院生5名）
外部ゲスト4名
5. プレゼン時間：1班につきプレゼン15分、ゲストからの講評5分の計20分
6. 各班のプレゼンテーマ

班	テーマタイトル
1班	ミャンマーの発展と日本外交
2班	クサトーク ～日本と中国の安全保障問題～
3班	共同統治による北方領土問題解決

4班	アジアの中での新たな枠組み
5班	核、安全保障問題から見る日米関係
6班	日印相互支援の確立
7班	戦日7班劇的ビフォーアフター
8班	アフリカのIT化
9班	戦日版 ドラえもん ～のび太とガーナの水外交～
10班	少子化問題解決へのEUとの連携政策
11班	ポップカルチャーのグローバルマーケティング戦略
12班	日本と安全保障理事会

7. 成果と今後

全体的に発想などは1年生らしく柔軟であり、また演出も趣向を凝らしたものが多く見られた。しかし、“論理性”や“実現可能性”が弱く、ジャッジの方からの講評もその点に関するコメントが多かった。

論理性に関して、問題提起や着眼点などは良いが、最終的な政策提言に至るロジックが飛んでいるため説得力を欠いたり、そもそも事実の認識不足や誤認識などが指摘されていた。また、「なぜその政策を日本政府が行うのか」、「民間企業ではいけないのか」、「日本政府がその政策を実施するメリットは何か」といった点が十分に説明できていなかった。

次に、実現可能性に関してであるが、プレゼンで提言された政策が「なぜ現在まで実施されてこなかったのか」といった観点が欠けているとの指摘があった。つまり、それらの問題・課題の障害をどう乗り越えるかといった部分にまで十分に言及できていなかった。また、外交である以上、日本政府だけでなく相手国の政府にとってもメリットのある政策でなければ実現が困難であるが、相手国政府からの観点が不足している班もあった。

ジャッジの方から上述のような指摘・コメントを頂くことにより、履修者たちは自分たちに不足している視点が認識できたのではないかと考える。こうした物事を多角的に見る姿勢や学術的な視角を直接体感することで、今後の学問に臨む姿勢に新たな変化がもたらされるのではないかと考える。また、彼らの提言に対して実際に現場で立ち会ったジャッジの方の話を聞くことで、より一層、外交の難しさや奥深さを知る機会になったと考える。

おわりに

本プレゼン大会を実施するにあたり、多くの方からのご協力をいただきました。

まず、お忙しい中ジャッジを引き受けてくださり、長時間プレゼン大会にお付き合い頂いた外部ゲストの方々にお礼を申し上げます。

続いて、会場の変更や物品の貸し出しなどに、迅速かつ丁寧な対応をしてくださった橋本様をはじめとする学事の皆様、リハーサルと大会当日にマイクやカメラなどの機器類の対応をしてくださったマルチメディアの皆様には大変感謝しております。

最後に、プレゼン大会後の懇親会において会場と御食事を提供してくださった生協食堂の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

誠にありがとうございました。